

倫理 第38回「マルクス以降の社会主義」

○今回のポイント

1. マルクス主義の修正

資本主義の発展と労働者の地位向上

19世紀末から20世紀にかけての資本主義はマルクスが分析・予測したものとは異なった展開

↓

経済的…労働者の生活は向上
政治的…参政権の獲得、大衆民主主義化

↓

労働者の発言権、社会的地位の工場

【①】

社会主義の実現を労働者階級の目標とするが・・・

↓

マルクスの社会主義に到達する原則（階級闘争、暴力革命論、プロレタリアート独裁論）を否定

↓

議会主義による平和革命の可能性を重視

↓

労働者階級の知性や道徳の向上および倫理的努力を重視し、
民主主義的实践による議会政治を中心とした平和的・漸進的な社会主義の実現を説く

↓

ベルンシュタインの修正主義は、【②】として大戦前ドイツでは大きな影響を与えるが・・・
中間的性格により、左右両翼から批判を浴び、第二次大戦後に衰退していく。

【③】

フェビアン協会が1884年にイギリスで創設される。

【④】夫妻・【⑤】など加盟。

↓

忍耐強い社会改良を積み重ねることによって資本主義の欠陥を除去

- ① 議会を通じての労働者経済状態の改善
- ② 【⑥】の完備
- ③ 産業資本の社会的管理(土地と資本の公有化)
- ④ 人格的自由の確立

↓

公共の福利厚生の完備した道徳的で自由な民主主義社会を実現することを目標

↓

第二次世界大戦後【⑦】として発展。合法的な議会主義によって、資本主義の弊害を漸進的に改良し、☆【⑧】**社会主義**☆を実現していこうとする。

※「社会民主主義」も議会主義をとるが、その目標は【⑨】であるので注意。

2. マルクス主義の継承…マルクス主義を現状に即して適用し、革命を成功に導く。

【10】

レーニンは帝国主義段階における議会制度による社会改革は不可能と判断。武力闘争による社会主義革命を主張してプロレタリアート独裁政権を樹立（【11】）

(1) 【12】の最高段階としての帝国主義

資本主義が進展すると、最終的に帝国主義段階に到達する。各国は不均等に発展するため、国際的な帝国主義戦争が勃発する。（この帝国主義戦争は総力戦を取り社会的弱者に戦争協力を強いるので階級闘争も激化）

<レーニンの帝国主義段階の資本主義の分析>

- ① 生産と資本の集中 → 独占化(カルテル・トラスト・コンツェルン)
- ② 銀行と独占資本が結びつく → 【13】の寡頭支配(少数の権力者による支配のこと)
- ③ 【14】…モノを輸出するのではなく、外国の鉄道や株などにカネを投資
- ④ 国際的独占化体制
- ⑤ 世界の領土分割(植民地支配)の完成

↓

世界の領土分割が完成してしまうと、これ以上植民地の拡大のしようがない。さらなる拡大を求めようとするれば、それは帝国主義諸国間での戦争にならざるを得ない…よって、帝国主義戦争が勃発！

(2) ロシアにおける社会主義革命

<マルクスが想定した生産関係の移行>

中世封建制は、【15】を経て、近代資本制へと、生産関係が変化する。
近代資本制は、【16】を経て、共産制へと、生産関係が変化する。

↓

<レーニンがロシアにマルクス主義を適用>

ロシアの状況は… ①少数の労働者、②圧倒的多数の遅れた農民、③民主主義以前の帝政
※マルクス思想でとらえると、ブルジョワ革命を経っていない状況

↓

革命の第一段階…労働者・農民の同盟と、共産党の指導により【17】民主主義革命を遂行
革命の第二段階…ブルジョワ的民主主義革命の直後、ただちに【18】へ転化。実現した社会主義革命を内外の反革命的干渉から擁護するため、共産主義社会への移行の過渡期として、共産党一党独裁(【19】)の必要性を強調

【20】

・マルクス=レーニン主義を中国の現状に適用

↓

→ 半植民地的・半封建的の二重の重圧に苦しむ「後進的農業国」

「【21】」(毛沢東の革命理論)

- ・革命の第一段階…反帝・反封建の新民主主義政権を建て、民族の独立と民主社会の確立を達成する
- ・革命の第二段階…その上で、社会主義革命を実現させる。